



二葉幼稚園

園のたより

2022 年

10月



10 月の聖句

そのひとは ゆたかに みをむすぶ

ヨハネ：15章5節

10 月のさんびか

せかいのこどもは

こどもさんびか改訂版100



みんなちがってみんないい

今年も各地で台風による甚大な被害が起き、言葉にできない悲痛な事件も後を絶ちません。只々、私達は祈りつつ、知恵を出し合い、できる事をできる形で諦めずに取り組んでいきたいです。

9月は、夏の風物詩く夏のはなたば>という夏休みのご家庭での思い出ブックを拝見するのが楽しみの一つです。コロナ禍3年目の規制緩和で家族旅行や祖父母宅訪問、海、山、自然との触れ合い、花火大会、盆踊り等、初めての体験ができた子ども達も多かったようです。勿論、家族でゴロゴロタイムやリラックスだけでも子どもにとっては安堵するもの。昨年、一昨年は、各ご家庭で工夫された過ごし方のエピソードに目頭が熱くなりました。この夏はまた、子ども達を思い、家族をねぎらう、各々のご家族の温かさをしみじみと感じました。改めて子ども達が大切に育てられていることへの感謝と、その子ども達と、手を伸ばせば抱きしめあえる幸せを噛みしめずにはおれません。

園では、毎月発行される「キリスト教保育」という冊子を参考に保育を進めています。今月、巻末にある「平和への祈り～保育者のために～」というコラムに目が留まりました。そこには、教会に来たある卒園児が小学校で他の生徒がしないことをして先生を助け、「役に立ってえらいね」と先生に褒められたが、うれしくなかった、という。彼との話から「彼はそれまでの育ちの経験の中で、何かをすること(doin)以上に、そこにいること(being)が尊ばれている、という感覚を体得していたのでしょう。何ができて、できなくても、自分がそこに存在することを喜んでくれる人がいる。親がいて、先生がいて、友がいる。誰よりも神さまがいてくださる。(一部抜粋)」(日本基督教団松戸教会牧師 村上恵理也)と書かれていました。

毎年、この時期に開く園児募集のための保育見学や説明会で伝え続けている、子ども達がこうして生まれてきたこと、今、生きていること、それだけでどれほど素晴らしく尊いことか、という実感。決して当たり前ではなく「おはよう。今日も会えたね」という喜び。まさに究極は、お互いがあるのままでそこにいること。互いの存在を認め、理解しようとする。見学説明会は僅か1時間ですが、初めは緊張して保護者にしがみついていたのが嘘のように、一緒に過ごす中で少しずつ安心すると自分の足で歩き始め、自分の方法で保育者にコミュニケーションをとり、新たな関係性を結んでいきます。帰る頃には「楽しかった！」と自分から言葉や表情で伝えたり、遠くからわざわざ駆け戻り「ありがとう」と手を握ったり・・・子ども達の秘めたる力の素晴らしさ、嬉しい変化に毎回感動を覚えます。

同様の出会いから始まった在園児の2学期。1年経つとこんなにも成長するのかと目を見張る年少さん。小さなお客さん達が来ると思いきり手を振って身体中で喜びを表現します。朝の挨拶にも力が入り、♪どんぐりころころや♪ここは(ここは)二葉幼稚園の広場♪を歌い、皆で友達を呼んでは「は～い」と外まで聴こえる元気な声での返事。微笑ましい限りです。今年の運動会では並んで入場する人と家族の元へ走り寄る人と個性が溢れ出ていた子ども達が今や年中さん。友達と2列に並んで誇らしげに行進する姿、リズム表現のダンスが楽しすぎて「あの曲かけて！」とノリノリで踊る姿に、個々の成長だけでなく集団としての育ちを感じます。年長は憧れのパラバルーンやリレー太鼓のリズムに友達と歩幅を併せて【ドンドンストップ】と歩く時、「〇くん、歩くのうまい！」と友達を自然に褒めあう姿、息を併せて綺麗に膨らむバルーンに思わず喝采！楽しみ反面ちょっぴり不安、色んな葛藤が芽生えます。それでも自分を信じ、仲間と支えあい、一人ひとりが違うからこそ一緒に創りあげるとイロドリ！大人も子どもも色とりどり！みんなちがってみんないい！【園長】